



小牧山

戦国に馳せる

安田女子大学文学部教授
高木久史

第2回 織田氏の出自とその系譜(2)

藤原信昌・将広父子と斯波氏

信憑性のある記録から、織田氏の系譜をたどってみましょう。

信長をはじめとする織田氏に関する現存最古の古文書と考えられているのが、明徳4年(1393年)の藤原信昌・将広の置文で、劔神社の再興のため力を尽くすことを父子が誓った誓約書で、現在劔神社に残っています。

この文書の中に、信昌の祖父として「道意」という名が記されています。信昌・将広が信長の祖先であるとする、この道意が確実な古文書に記録された、最も時代を遡ることができる織田氏の祖先となります。

斯波氏は足利氏の一族で、そのなかでも最高の家の格を誇ります。14世紀半ばから斯波氏は越前に地盤を築き、康暦2年(1380年)までに再び越前守護職を獲得し、以後斯波氏が代々継承します。将広の「将」は、斯波義将から一字を与えられた

信長銅像(織田バスターミナル)



名前のようで、藤原将広は斯波義将の家来だった可能性があります。

その後、応永7年(1400年)義将の子・義重が尾張守護に任命され、将広も尾張へ移住し、名字として織田を名のり始めたと考えられています。同10年(1403年)以降、織田伊勢入道常松という人物が尾張守護代として活動したことが記録に残っています。

常松は正長元年から永享3年(1428~1431年)の間に死亡します。もし常松が藤原将広その人であれば、越前を出て30年ほどを尾張で過ごしたことになります。その後織田氏が尾張守護代を代々継承し、戦国期まで続きます。

さて前回少し触れた、織田氏「藤原氏出自説ですが、藤原信昌・将広父子を信長の祖先であるとする場合、まさに藤原氏です。また尾張守護代の歴代の織田氏は文書にしばしば「藤原」と署名しています。信長自身も若いころの文書では「藤原信長」と署名しています。

常松以後、織田氏は守護代家以外にも家が分かれていきます。信長の直系の先祖のうち確実な記録でたどることができるのは15世紀後半に活躍した曾祖父・良信までであり、それ以前の系譜はわかっていません。良信から後この家は代々弾正忠という官職を自称します。良信の業績の



越前町織田地区鳥瞰

中で著名なものが文明14年(1482年)の清須宗論です。

信長の曾祖父・祖父

信長の祖父・信定(信貞)の活動は永正年間(1504~1521年)に確認できます。清須方守護代家に清須三奉行と呼ばれる3人の有力家臣があり、その一人である信定は勝幡を本拠としました。また、港町であり門前町でもある津島を領有したことが、その後のこの家の重要な経済基盤となったと考えられています。このような環境から、父・信秀、そして信長が登場します。

問合先 文化振興課(☎76 11 89)